

協同組合豊田市鉄工会

イノベーションの種をまく ～「経営研究会」の取組～

PROFILE

- ◆所在地：豊田市小坂本町1-25
- ◆設立：1957年5月
- ◆代表者：理事長 近藤 満
- ◆組合員：150社（2014年4月現在）
豊田市・みよし市に事業場を有する、機械器具の生産及び機械による製品の加工・修理・組立各作業等を行う事業者
- ◆電話：0565-33-2730
- ◆http://www17.ocn.ne.jp/~tekkokai/

（協）豊田市鉄工会は、豊田市・みよし市の機械器具の製造加工を行う事業者の協同組合。人材育成や職場改善のためのセミナー、優良企業・先進企業の見学会等など、組合員企業に対し、経済活動の促進と経済的地位の向上に資する活動を積極的に行っており、中でも特徴的なのが「経営研究会」の取組である。

【「経営研究会」立ち上げのきっかけ、活動内容】

「経営研究会」は、世代交代の時期を迎える組合員企業が多くなったことを背景に、円滑な世代交代と後継者育成を目的として、2006年度に立ち上げられた。「同じ立場の者（2代目社長）が気兼ねなく本音をさらけ出せる場」「経営の基本を勉強する場」が、その原点である。

現在（2014年度）の参加企業（者）は17社。経営者や幹部社員、次代を担う若手がメンバーで、活動は、毎月1回の勉強会が中心。その内容は、有識者や先進的な取組を行っている経営者等を外部講師として招き、企業が抱える具体的かつ現実的な課題についての意見交換や、各社の取組や課題についての意見発表、先進的取組を行う企業への訪問など幅広い。この勉強会は、立ち上げ以来、毎月欠かさずことなく続けており、間もなく2015年4月に100回目を迎える。

平成26年度経営研究会の活動内容

★「年間テーマ」 下請け企業から自律型企業への展開 ～自社の技術力を発展・進化させ、新技術・新商品開発・新市場開拓に向けた競争力を養う～

月	活動内容、テーマ等
4月	「経営者としての資質・能力・力量・統率力について」
5月	市・県との意見交換／知財総合支援窓口のプレゼンテーション
6月	「新商品とマーケティングについて」
7月	先進企業訪問（神奈川県）
8月	「外部の技術・人材の活用強化について～オープンイノベーション」
9月	「知的財産重視経営について」
10月	展示会出展に向けたシュミレーション・見本市視察（びわ湖環境ビジネスメッセ）
11月	参考となる他の企業の事例研究（経営者による事例発表・意見交換）
12月	「ネットショップ事業の展開について」
1月	自社で進める「現状の取り組み、を各社発表
2月	参考となる他の企業の事例研究（経営者による事例発表・意見交換）
3月	「ブランディング戦略とデザインの役割について」

【「経営研究会」の成果】

「経営研究会」の成果として、参加者の意識改革に繋がっていることがあげられる。参加者は、「勉強会への参加が、自分と自社に向き合うきっかけを提供してくれた。」「イノベーションを起こすには、経営者自身が変わることが必要という自覚が芽生えた」と語る。また、他企業との連携や、新事業への挑戦、海外への販路拡大など新たな取組に挑戦し、他の企業の模範となる企業（新世代ロボット研究会（P7.8参照）、横山興業㈱（P21.22参照）等）も出てきている。

また、研究会の活動を通して、それまで希薄であった企業同士の横の繋がりが構築されたことも成果の一つ。参加企業同士の連携した取組も生まれている。

【課題】

「経営研究会」は参加企業の自主的な姿勢がカギ。参加者には、自社の進むべき道、取り組む課題を見つけ、その課題解決に資するような勉強会を続けることが求められる。調整や打合せ等の準備など、研究会の開催には大きな労力がかかり、その負担がどうしても一部に集中してしまうことが課題である。また、会員の多くが会社の経営層で多忙であるため、出席率が伸びないことも悩みの一つとなっている。

また、地元の豊田市・県・国など行政、その他支援機関との連携も不可欠となっている。現在、豊田市の施策を担う活動として位置付けられ、市から資金・運営面への継続した支援を受けているが、様々な取組を行う上でも、市以外の各機関の行う施策情報を収集し、補助金等の支援メニューを効果的・効率的に活用することも重要である。

各社の考え方や価値観の相違を踏まえ、「経営研究会」の活動を今後どのように進めていくか、100回を区切りに新たな展開を検討中である。

【活動の様子】



勉強会



経営研究会の取組を発表